ようこそ先輩コーチ　球技大会リトルティーチャー派遣計画

ベイタウンでは毎年１月に３小学校対抗で球技大会が行われているが、この大会、実は中学生も協力している。名付けて「球技大会リトルティーチャー派遣計画」。打瀬中学校のサッカー、バスケット部員が、出身校の球技大会チームをコーチするというものだ。しかもこの指導には打瀬中学校の各種目部活の先生も一緒にコーチに出向くという。こんな楽しい（？）企画は初めてだ。さっそく早朝 7:30 からのサッカーの朝練を海浜打瀬小で取材した。　**【松村守康】**

朝、眠い目をこすりながら校庭につくと、やっているやっている。海浜打瀬小６年生 30 人ほどに交じって、少し体格がいい中学生５人がグラウンドをかけまわる。大声を上げて熱心に指導しているのは中学のサッカー部顧問、石川先生だ。

小学生 11 人のチームに対して中学生は５人の変則ゲーム形式の練習だが、それでも試合は圧倒的に中学生がリードする。去年までは一緒にクラブで練習していた先輩達の圧倒的な成長ぶりに驚きながらも小学生チームも必死に食らいつく。ゴールが決まると控えの選手席からは大きな歓声があがる。

同じ時間にアリーナでは打瀬中女子バスケット部 20 人も後輩達を相手に練習を指導していた。顧問の佐久間先生に「朝早くから大変ですね」と声をかけると、「子どもたちは朝練は慣れているので平気です」と応えてくれた。

３小学校対抗というだけあって、子どもたちの盛り上がりは大変なもので、大会目前になると選手は学校の名誉をかけて毎日のように練習に励む。各校とも朝の練習が中心だが、朝練のほかに放課後もという学校もある。

中学生たちがリトルティーチャーとして練習に協力するのは１月の４日間（女子バスケは６日間）だけだが、登校前の忙しい時間を割いて母校の後輩達を指導する。

球技大会本番　今年優勝したのは？

今年の球技大会本番は１月 24 日午後 1:00 から海浜打瀬小学校を会場に行われた。男子サッカーは校庭、女子バスケットはアリーナを使い、３小学校のチームが総当たりで試合を行い勝敗数で順位を決めた。大会は毎年各小学校持ち回りで行われ、会場となる小学校では６年生の他に全校生徒と父兄が熱い応援を繰り広げる。今年の球技大会結果は、男子サッカーは美浜打瀬小が優勝、以下海浜打瀬小（準優勝）打瀬小（3位）、女子バスケットは連続優勝を狙う美浜打瀬小を海浜打瀬小が破り、２度目の優勝を飾った。打瀬小は３位だった。

リトルティーチャー派遣計画は打瀬中学校と３小学校独自の行事だ。はじまった時期は不明だが、石川先生が２年前に打瀬中に赴任したときにはすでに行われていたという。派遣計画はこの他にも毎年秋に３校対抗陸上競技大会で陸上部が部員を派遣。そして今年３月１日には受験をすませた中学３年生が学習リトルティーチャーとして小学校に指導に赴く。

石川先生は「中学生がそれまでいた小学校で年齢差のない後輩たちと練習や勉強をすることはとてもいい試み。小学生にとっては数年後の自分の具体的な目標を知ることができ、中学生にとっては自分の成長を実感できる」と話してくれた。

ベイタウンに津波襲来！　そのとき学校では

2012 年１月 18 日、午前 9:15。茨城県沖でマグニチュード８クラスの地震が発生。ベイタウンを含む東京湾千葉県側一帯に津波注意報が発令。こんな想定で海浜打瀬小学校では全校で津波避難訓練が行われた。２時間目の授業中だった子どもたちはすぐに避難開始、担任の先生の引率に従い、クラスごとに近隣の４つのマンションに避難した。高学年はビーチテラスとブエナテラーサ、低学年は公園西の街、そして中学年は東の街とあらかじめ決められた計画に従って避難。予定どおり 10 分で無事避難は完了した。

通常の地震避難などでは児童は学校で待機となるが、津波の場合は構造上そうはいかない。比較的安全な近隣マンションに避難する方が安全だ。だがそうなると一時的にせよ各マンションには他の街区の児童も避難してくる。受け入れたマンションでは子どもたちを居住者宅に入れる訳にいかないので階段など比較的安全な共用部分で待機させることになる。二次的な事故なども考えると避難の場所だけ提供すればいいという訳にはいかない。このため受け入れ側のマンションでは管理組合も協力し、児童の父兄だけでなく４つのマンションで合計 160 人のボランティアが小学生の避難を受け入れたという。

実はベイタウンには津波の際にどうするかという防災対策はまだない。地震だけでなく津波注意報が発令された場合、子どもたちはどこへ避難させればいいのだろう。今回の避難訓練は学校側が近隣のマンション管理組合に声をかけ、５月から休日にも打ち合わせをするなど何度も住民側と折衝して実現した。

マンションの街ベイタウンでは津波対策はどうするか。学校や各マンションの管理組合が独自に対策を考えるだけでは追いつかない。今は情報の共有さえできていない状況だ。街全体で考える必要があるのではないだろうか。　**【松村守康】**

まくはり
Baytown News
第177号（2012年2月1日号）
幕張ベイタウンニュース編集局
http://www.baytown-news.net/

文教地区の基盤工事着工　宅地部分の開発は未定

2010年6月号のベイタウンニュースで取り上げた文教地区（京葉線を挟み、ベイタウン東北に位置）の工事が数か月前から始まったようなので、企業庁担当者に進展状況を確認しました。　**【城本】**

ファーストウイング19階から撮影。油圧ショベルが多く入り、インフラ整備が行われている様子が分かる。

工事が始まったのは、文教地区の約30ヘクタールの土地。もともと学校、教育機関が建設される予定でしたが、2008年に土地利用計画が見直され住宅機能を加えた街づくりが進められることになりました。2011年、開発地区の正式名称を「若葉住宅地区」と決定。住宅4000戸、居住人口1万人を想定した街づくりがスタートしました。現在は、住宅地区道路地下のインフラ整備が行われており、第一弾は今年3月末で終了予定です。ただし、下水道工事は第一弾で半分以上が完成しますが、電線共同溝は一部のみ。道路の表層も含め全てのインフラ整備が完了するのは半年以上先になりそうです。企業庁の土地造成事業は平成24年度末で終了することが決定しているため、それまでに道路及び公園（住宅地区中央部分）を完成させるべく、今後急ピッチで工事が進められます。その後、道路、公園は千葉市に移管されます（時期未定）。住宅建設予定の土地に関しては、行政の管理下ではなく、企業庁が処分し最終的には事業主に分譲する方向で検討されています。企業庁は、平成24年度中には処分を開始したいとの意向を示しています。ただ、今のところ事業主は未定であり、年度内にどれだけ動くのかは分かりません。実際にマンション建設がスタートするのは少なくとも4、5年先になりそうです。予定では、公園を囲む街区とインターナショナルスクール南側に位置する街区の低層階（地図参照）には商業施設が入ります。小学校、保育園予定地となっているところは、千葉市教育委員会が検討することになります。学校等の建設が実現するかどうかは、建設状況や住居人口によって変わってきます。

1995年に街開きしたベイタウンは、官・民共同で整備されました。プロムナードを中心にパティオスが立ち並ぶというヨーロッパ風沿道型住宅、地域とのコミュニケーションを重視した打瀬小学校の建設は、街全体の具体的なイメージに基づくものでした。一方、若葉住宅地区は、文教地区の未利用地活用というところからスタートしています。基本理念を「輝く人と街並みが融合する国際性豊かな街づくり」として開発が進められていますが、街の全体像はイメージしにくいものであり、出来上がって初めて見えてくることになります。ベイタウンの隣接地区ではありますが、第二のベイタウンではなく、全く新しい住宅地区と考えるべきでしょう。しかし、ベイタウン住民にとって若葉住宅地区の商業施設や公園は日常生活で利用できるものですし、若葉地区の住民にとってもベイタウンは魅力あふれる街のはずです。二つの街で人の往来が活発になれば、双方活性化され賑わいます。若葉住宅地区は、ベイタウン住民にとっても影響を受ける街になるのです。完成までの期間、街が形作られていく様子を注目していきたいと思います。

平成24年度末までに道路（赤色部分）及び公園が完成予定。住宅地区（オレンジ部分）低層階には商業施設が入る予定。

H7街区の工事着工

本紙でもウォッチしてきたH7街区（第二中予定地→高層住宅地）の建設も今年2月1日に開始されることになり、現在（1/28時点）は敷地整備工事が行われている。12番街付近にあった樹林（街路樹の仮置き場）も撤去され、大きく育っていた樹木も伐採されて更地になってしまった。

H7街区には高層住宅棟と高齢者施設棟の2種類が建設される予定で、このうちベイタウンのシニアも期待する高齢者施設棟は今年2月1日着工、平成24年11月30日の竣工予定。高層住宅棟は同じく2月1日着工し平成26年3月31日の竣工予定。高齢者施設棟には一般の高齢者向け住宅のほか、デイケアなどの施設の建設も期待されるが公営のものでなく事業者（三菱地所丸紅）の開発となるため住民のニーズをどの程度満たすものとなるかは未定だ。公共地として予定していたH7街区なので、高齢者向け施設についても住民と内容について積極的に意見を聞くなどしてもらいたいものだ。　**【松村守康】**